2019
10
No. 683

國學院大學學報

国学院大学　令和元年10月20日㈰　定期号（毎月20日発行）1部20円
［発行］国学院大学　［編集］総合企画部広報課　〒150-8440 東京都渋谷区東四丁目　［電話］03（5466）0130　［FAX］03（5466）0528

「大嘗會近く」

霜月の日よりなごみの空ひろし。
天つ日高は、齋籠（いはこ）ぶらし
（「春のことぶれ」）
釈　迢空

祭儀
■ **即位礼当日祭**　10月22日（祝・火）　午前11時　神殿　■ **創立記念祭**　11月1日（金）　午前9時　神殿
■ **関係物故者慰霊祭**　11月1日（金）　午前10時30分　百周年記念館記念講堂

石川則夫副学長に聞く

若者よ 書物に親しめ

「物語」こそ人生の指針

人は生きていく上で、それまでの経験を教訓とすることが多い。成功も失敗も、すべてが人生をより良き未来へと導く指針となる。しかし、若者は人生経験が多くなく、齢を重ねても断片的に蓄積された記憶を呼び起こすことは難しい。とっさに経験を生かせず、悔やむことも多いのではないだろうか。

国学院大学で文学研究を続ける石川則夫副学長（文学部長、教授）は、「人間が経験した出来事を時系列に整えて語っていくことを『物語』と呼び、それを研究する物語論（narratology）もある」と解説。さらに、「人は経験を積んで物語を更新し、成長してきた。物語は人間自身がどのように生きていくかを支えてくれるもの」と主張する。

しかし、社会が多様化するにしたがって、経験そのものが少ない若者に限らず、一個人の経験則だけで物語を確立させることは難しくなっている。では、不足する経験をどのようにして補えば良いのか。石川副学長は、「そこに助け舟を出してくれるのが、今までさまざまな作家が書物という形で残してきた物語。若者にはスマートフォンなどのゲームもある。文学作品やゲームには必ず物語が存在するので、そこから複数の物語を取得することができる」という。

季節は秋。10月27日には「おかえり、栞（しおり）の場所で待ってるよ」を標語とした読書週間（～11月9日）が始まる。石川副学長が推薦する物語に浸ってみてはどうだろう。

【4、5面に関連記事】

歴史を変えた 出雲駅伝V

令和最初の大学駅伝シーズン開幕戦で国学院大学陸上競技部が駅伝の歴史に新たなページを加えた。出雲・全日本・箱根の「大学三大駅伝」すべてで出場権を獲得し、初めて同一シーズン中に3つのレースに挑んだ本学陸上競技部。初戦となる第31回出雲全日本大学選抜駅伝競走（10月14日）は、アンカーを務めた土方英和主将（健体4）が4位でタスキを受けると先頭を猛追。残り700メートルでトップを走る駒沢大・中村大聖選手をとらえ一気に先頭に立ちそのままゴールを駆け抜けた。

今年の箱根駅伝総合7位に入り、7年ぶり3回目の箱根路で陸上競技部は大学駅伝の歴史に新たな一歩を記す大仕事を成し遂げた。出雲路で初優勝のゴールテープを切った土方主将は「ゴールテープを切ることを考えてはいたが、驚いている。前の5人やライバル校の選手に感謝」と喜びを語った。

【詳細は最終面】

台風19号で被災された皆さまへ

台風19号の豪雨災害により被災された皆さまに、衷心よりお見舞いを申し上げます。

本学学生のご家族をはじめ、卒業生、関係者の皆さま、罹災者の方々の生活が一日も早く平常に復するよう、本学としてもできる限りの支援を行う所存です。

令和元年10月20日　国学院大学

みはるかすもの

東日本を縦断した台風19号による猛烈な雨は、長野県の千曲川など大小の河川が街の産業も人々の生活ものみ込んだ。犠牲者の冥福と被災地の一日も早い復旧を祈りたい▼史上初となる日本代表のベスト8進出に沸くラグビーW杯日本大会も、台風の影響で3試合が中止に。試合中止で1次リーグ敗退が決まったイタリアのパリセ主将は「試合ができれば公園でも良かった」と語るなど、世界的祭典にも影を落とした▼折しも国連は9月、地球温暖化で海や地球上の氷が破壊され、人類の大部分を直接的に脅かしていると警告した。195カ国が参加する気候変動に関する政府間パネル（IPCC）で承認された報告書には、温暖化が海と氷に及ぼす影響は、海面上昇、氷河の消失など多岐にわたり、水産資源の減少や水源の破壊が挙げられる。巨大な暴風雨が頻発するとも警鐘を鳴らす▼今回の台風は、人類を脅かす大災害の序章なのか。恐れの半面、温室効果ガス削減の取り組みが個人や地域レベルで進まない現実もある。国家間も足並みが揃わない▼勝利を目指し激しい接触プレーもいとわないラガーマンたち。世界のラグビーを統括する「ワールドラグビー」が発行する競技規則には品位、情熱、結束、規律、尊敬の5つが並ぶ▼人類は今、地球への尊敬と、課題克服への情熱、人類の結束、規律と品位ある暮らしを失うことなく「One Team」となって環境問題に向き合う時ではないか。

主な内容　**2面**／彬子女王殿下とともに稲刈り体験　**3面**／「指定寄付金」ご芳名
4・5面／特集 人生の定点を定めてくれる「物語」　多様化の時代だからこそ多彩な経験を　**6面**／インフォダイジェスト
最終面から K:DNA　**Ⅰ面**／陸上競技部 オール国学院の逆転V　神集う出雲路で実力示した　**Ⅱ面**／創部100年の柔道部　好成績続々

KOKUGAKUIN UNIVERSITY 140th 1882–2022

学生とともに稲刈りをされる彬子女王殿下

彬子女王殿下とともに稲刈り体験
黄金色の田んぼで学生ら

日本の歴史と文化を育んできたコメづくりの大切さを学ぶ「新潟コメ作りワークショップ」が9月22日、新潟市北区で行われ、本学特別招聘教授の彬子女王殿下とともに学生約30人が稲刈り作業を行った。

今年で4年目を迎えるワークショップは、彬子女王殿下が総裁を務められる一般社団法人「心游舎」（大阪市）が主催。自然栽培に取り組む地元農家の協力で、5月には苗を手植え、8月には草刈りも行った。

秋晴れの空の下で行われた稲刈りに、野良着姿の学生たちは鎌を片手に黄金色の田んぼに集合。彬子女王殿下から「心を込めて神様のお米を刈っていただきたい」と激励の言葉をいただいた後、農家の方々からアドバイスを受けながら、たわわに実った稲穂を刈り、次から次へと束ねていった。稲束は「ハサ」と呼ばれる金属製の台に掛けられ、天日干しに。作業後には、落ち穂を拾い、最後の1粒まで大切に扱うことを学んだ。

初めて稲刈りをしたという京谷飛勇さん（健体3）は「体力には自信があったが、すごくきつかった。農家の方々には親切に教えていただいた。また来たい」と笑顔で話した。5月の田植えにも参加した佐野向日葵さん（神文2）は「自分たちが植えた苗が成長したのに感動した。これからはおコメのありがたみを感じて残さず食べたい」と感想を語った。

作業後の振り返り学習では、地元で収穫されたばかりのコシヒカリで作られたおにぎりと朝採り枝豆が振る舞われ、「おいしい」と歓声があがった。彬子女王殿下は「機械植えより手植えのほうが実りがいいと実感でき、感激した。半年間ありがとうございました」と学生と農家の方々の労をねぎらわれた。

収穫したコメの一部は12月、熱田神宮（名古屋市）に奉納、本学でおコメを食べる食事会が開催される予定。

考古学研究室
縄文早期の社会の成り立ち解明へ調査続く

国学院大学考古学研究室（谷口康浩文学部教授）では、平成26年から群馬県長野原町の居家以岩陰遺跡で発掘調査を行っている。6年目となる今年は8月下旬から約1カ月にわたり縄文早期の人骨の発掘などを行った。同遺跡では、これまでに国内最古級となる縄文早期・約8300年前の埋葬人骨が20体以上見つかっている。考古学や形質人類学などの専門家が学際的な調査団をつくり、DNA分析などが進められていて、縄文人の起源や埋葬習俗の解明に取り組んでいる。

発掘作業には考古学を学ぶ30人以上の学部生、大学院生が参加。谷口教授らの指導を受けながら、見つかった人骨の発掘や土壌の水洗いをして微細な遺物を回収する作業などにあたった。

同遺跡の岩陰部からはこれまでの調査で22体の縄文早期の人骨が確認されている。今回も腰椎部分で切断されている人骨が集まって出土しており、谷口教授は「遺体の処理や埋葬法が特異で、葬制の起源や早期縄文人の他界観を知るうえで重要な発見だ。また、出土人骨のDNA分析によって個体間の血縁関係も調べており、縄文早期の社会の成り立ちも解明したい」と話す。

岩陰の前に広がる斜面からは、縄文草創期にあたる1万年前の廃棄物を含む灰層が発見されていて、大量の獣骨のほか、装身具とみられるビーズなども見つかった。今後、分析が進むことで当時の生活状況や自然環境が明らかになると期待される。

9月卒業 令和元年度は89人

国学院大学の令和元年度９月卒業は89人となり、９月30日付での卒業が確定した。

卒業期は128期で、卒業式典は２年３月22日に行われる。所属学部学科別の卒業生数は次の通り。

◎**文学部**＝14人▽哲２人▽史４人▽日本文３人▽中国文２人▽外国語文化３人
◎**経済学部**＝28人▽経済10人▽経済ネットワーキング11人▽経営７人
◎**法学部**＝32人▼法律専攻24人▼法律専門職専攻０人▼政治専攻８人
◎**神道文化学部**＝５人
◎**人間開発学部**＝10人▽初等教育３人▽健康体育６人▽子ども支援１人

法学部 ルーマニアから研究者招きシンポジウム

国学院大学法学部とババシュ・ボヤイ大学政治行政コミュニケーション学部（ルーマニア）が昨年、学部間協定を締結したことを記念したシンポジウムが９月27日、渋谷キャンパス常磐松ホールで行われた。「東欧のヨーロッパ化－体制転換の30年」と題した今回のシンポジウムで、司会の藤嶋亮准教授は趣旨説明を行い、「東ヨーロッパは日本ではなじみが薄い。ルーマニアについて注目して、1989年に起こった東欧革命以降の30年を振り返るとともに、ルーマニアの魅力を伝えたい」と話した。

続いて３人の研究者の報告が行われ、欧州連合（ＥＵ）や移民問題が専門の佐藤俊輔法学部専任講師は「東欧諸国のヨーロッパ化―ＥＵからの視点」と題して、ババシュ・ボヤイ大学から来日したシンティア・デアコネスク氏とフローリン・フェシュニク氏が行政や政治制度について報告した。その後、３氏に藤嶋准教授を交えた討論などが行われた。

院友3氏が司法試験を突破

今年度の司法試験合格者が９月10日、法務省から発表され、4466人の受験者のうち、1502人が合格した。本学法科大学院修了生では３人が難関を突破した。

平成30年３月に閉鎖した法科大学院修了生のうち司法試験合格者は、平成18年度以降の累計で50人となった。

渋谷キャンパスで10月15日に催された合格者祝賀会では、日頃の学びをサポートした教員や修了生らが多数駆け付け、祝福の言葉や将来へのアドバイスが送られた。

教職員人事

[退職]
◆自己都合
◎大学事務局◇専任▽金子智美（総務部人事課主任）
以上、令和元年９月30日付

[退職]
◆自己都合
◎大学事務局◇専任▽大久保有紗（国際交流事務部国際交流課書記）
以上、令和元年10月31日付

「高等教育の修学支援新制度」の対象機関に決定

文部科学省は９月20日、来年４月に始まる低所得世帯を対象とした高等教育の無償化制度に、本学および国学院大学北海道短期大学部を含む国公私立の大学・短期大学1043校が制度の利用を申請し、全校が要件を満たして対象になったと発表した。

本学では10月28日から在学生を対象にした募集説明会を実施する。詳細は学生生活課まで。

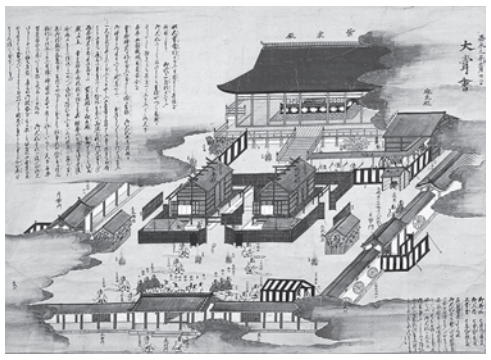
研究開発推進機構 齋藤助教が中村元東方学術奨励賞を受賞

中村元東方研究所は９月２日、今年度の中村元東方学術賞と奨励賞の受賞者を発表し、奨励賞に齋藤公太研究開発推進機構助教が選ばれた。

受賞作となった齋藤助教の『「神国」の正統論―『神皇正統記』受容の近世・近代―』（ぺりかん社）は、平成30年度の本学出版助成（甲）により出版。古くから膨大な研究のある『神皇正統記』を受容史から読み直し、日本思想史のなかに位置づけている。「室町期から近代にいたる長い受容史を太く描いた点が秀逸」と評価された。

授賞式は10月10日に行われた。

国学院大学博物館 即位礼、大嘗祭前に 関連企画続々



天皇陛下のご即位に伴い、10月22日に即位礼正殿の儀が、11月14、15日には大嘗祭の中心儀式「大嘗宮の儀」が行われる。

一世一度の重要祭祀を前に、国学院大学博物館では関連するイベントが続いている。館内神道展示室では、10月１日から特集展示「即位礼」Part２が始まった（12月15日まで）。「即位」の儀式に焦点をあて、近世の譲位と即位に関する絵図・文献資料を始め、近代の即位礼の儀式に関連する資料などを展示している。

11月１日からは同企画展示室で企画展「大嘗祭」が始まる。本学が所蔵する「嘉永元年大嘗会図＝**写真**」「大嘗祭神饌模型」など貴重な資料から大嘗祭を読みとく。会期中には、ミュージアムトークも企画されている。会期は12月15日まで**【６面に関連記事】**。

協定校から交換留学生６人

本学では、交換留学プログラム（K-STEP）に11人の留学生を９月から受け入れている。10月４日には国際交流推進部と学生部による歓迎会が開かれ、交換留学生や学部、大学院に入学した留学生、国際交流に関心を持つ学生らが参加した。

交換留学生の内訳は次の通り。滞在期間は令和２年８月まで。

◎マニトバ大学（カナダ）＝３人
◎サラマンカ大学（スペイン）＝２人
◎世新大学（台湾）＝２人
◎ハノイ大学（ベトナム）＝２人
◎ヨーク・セント・ジョン大学(英国)＝２人

「指定寄付金」ご芳名

学校法人国学院大学では、私学としての公共性と独自性ある教育研究体制を確立するため、広くご寄付を募っています。

多方面の方々からのご寄付をたまわりました。ここにご芳名を掲載し、重ねて深甚の謝意を表します。

本法人に対する寄付は、専用用紙による申し込みとインターネット上でクレジットカード決済による申し込みが可能です。詳細は**６面**をご参照ください。

（総務部総務課）

令和元年度指定寄付者一覧（敬称略）

自　平成31年 4月 1日
至　令和 元年 9月30日

寄付者	寄付目的	寄付金額	寄付月日
浅井　隆市	学生・生徒等の活動支援(陸上競技部)	3,000	平成31年4月15日
		3,000	令和 元年6月17日
		5,000	令和 元年7月16日
		3,000	令和 元年8月15日
		3,000	令和 元年9月15日
一般財団法人国学院大学院友会 会長　吉田 茂穗	教育・研究振興支援(貴重資料デジタル化)	100,000	平成31年4月17日
	学生・生徒等の活動支援(第23回全国高校生創作コンテスト)	100,000	令和 元年6月28日
	学生・生徒等の活動支援(第15回地域の伝承文化に学ぶコンテスト)	100,000	
松崎　茂	教育・研究振興支援	100,000	平成31年4月26日
		50,000	令和 元年9月30日
黛　和夫	教育・研究振興支援	5,000	平成31年4月26日
	学生・生徒等の活動支援(陸上競技部)	5,000	
坂口　吉一	学生・生徒等の活動支援(ふるさと奨学金)	10,000,000	令和 元年5月 7日
市川　博之	学生・生徒等の奨学金	2,000	令和 元年5月15日
		5,000	令和 元年5月31日
		2,500	令和 元年6月28日
		2,500	令和 元年7月31日
		2,500	令和 元年8月30日
		2,500	令和 元年9月30日
国学院大学院友経済会 会長　大塚　勤	学生・生徒等の奨学金(大規模災害支援金)	100,000	令和 元年5月31日
臼杵　千枝子	学生・生徒等の活動支援(陸上競技部、硬式野球部)	100,000	令和 元年6月 4日
株式会社アルク 代表取締役　實川　利光	学生・生徒等の奨学金	30,000	令和 元年6月17日
		30,000	令和 元年8月 9日
丸山　朋廣	学生・生徒等の活動支援(射撃部支援)	5,000	令和 元年6月17日
国学院大学若木育成会 後援会熊本県支部	学生・生徒等の活動支援(陸上競技部)	30,000	令和 元年6月18日
服部　謙太郎	教育・研究振興支援	5,000	令和 元年6月28日
喜多山　健二	学生・生徒等の奨学金	100,000	令和 元年6月28日
院友会神奈川県支部 支部長　近藤　正臣	学生・生徒等の活動支援(陸上競技部)	41,000	令和 元年7月17日
匿名	学生・生徒等の活動支援(国学院大学久我山高校硬式野球部)	50,000	令和 元年8月 9日
株式会社MLJ 代表取締役　佐藤　祐輔	学生・生徒等の活動支援(国学院大学久我山高校硬式野球部)	100,000	令和 元年8月 9日
遠藤　悟朗	教育・研究振興支援	30,000	令和 元年8月14日
山元　隆司	学生・生徒等の活動支援(国学院大学久我山高校バスケットボール部)	5,000	令和 元年8月30日
山田　政幸	学生・生徒等の活動支援(国学院大学久我山高校硬式野球部)	10,000	令和 元年8月30日
上田　太郎	学生・生徒等の活動支援(国学院大学久我山高校硬式野球部)	5,000	令和 元年8月30日
萱嶋　涼子	学生・生徒等の活動支援(国学院大学久我山高校硬式野球部)	20,000	令和 元年8月30日
岸田　安広	学生・生徒等の活動支援(国学院大学久我山高校硬式野球部)	30,000	令和 元年8月30日
匿名	学生・生徒等の活動支援(国学院大学久我山高校硬式野球部)	30,000	令和 元年8月30日
岡田　徹	学生・生徒等の活動支援(国学院大学久我山高校硬式野球部)	10,000	令和 元年8月30日
髙橋　将大	学生・生徒等の活動支援(国学院大学久我山高校硬式野球部)	30,000	令和 元年8月30日
原田　隆志	学生・生徒等の活動支援(国学院大学久我山高校硬式野球部)	10,000	令和 元年8月30日
田村　督	学生・生徒等の活動支援(国学院大学久我山高校硬式野球部)	3,000	令和 元年8月30日
児玉　英之	学生・生徒等の活動支援(国学院大学久我山高校硬式野球部)	10,000	令和 元年8月30日
松村　智代	学生・生徒等の活動支援(国学院大学久我山高校硬式野球部)	10,000	令和 元年8月30日
鈴木　葉月	学生・生徒等の活動支援(国学院大学久我山高校硬式野球部)	30,000	令和 元年8月30日
宮嶋　勝康	学生・生徒等の活動支援(国学院大学久我山高校硬式野球部)	10,000	令和 元年8月30日
北村　真人	学生・生徒等の活動支援(国学院大学久我山高校硬式野球部)	5,000	令和 元年8月30日
清水　一	学生・生徒等の活動支援(蹴球部)	10,000	令和 元年8月30日
福田　由美子	教育・研究振興支援(文学部日本文学科支援)	500,000	令和 元年9月 5日
佐藤　年彦	学生・生徒等の活動支援(蹴球部)	10,000	令和 元年9月17日
株式会社四門 代表取締役　那波　市郎	教育・研究振興支援	100,000	令和 元年9月25日
堀口　知之	教育・研究振興支援	500	令和 元年9月30日

※メッセージ募金に寄せられたメッセージは「国学院大学寄付専用ホームページ」でご確認いただけます　（単位：円）

学問ノ道　第20回

吉田家伝来資料と国学院大学

宮地 直一

国学院大学図書館は、吉田家に伝来した文書群を所蔵している。本学校史・学術資産研究センターでは、近世の吉田家文書の調査・整理を続けており、この成果として、近年、江戸時代の大嘗祭に関わる文書が数点、見いだされた。

吉田家は、現在の吉田神社（京都市）に奉仕していた卜部氏の一族で、『日本書紀』をはじめとする古典や神々や祭祀に関わる知識に通じていた。吉田家や、室町時代に吉田兼倶（１４３５～１５１１）が興した吉田神道は、神道研究の上で重要である。また、同家に伝来した資料の調査・研究・刊行には、本学関係者も深く関わってきた。

内務省神社局考証課長をつとめ、本学や東京帝国大学で教鞭を執った宮地直一（１８８６～１９４９）は、神道史研究の基礎を築いた人物の一人である。宮地は、吉田家の文庫に出入りできた数少ない人物の一人とされ、本学図書館が所蔵する宮地直一旧蔵資料のなかには、吉田家やその家老的な役割であった鈴鹿家が所蔵していた資料の写しが残る。宮地は、この資料調査の成果を、大学での講義に取り込んでいたようである（昭和16年度講義案）。

昭和11年の暮れ、本学出身で、当時、皇典講究所職員となっていた二宮正彰（１８９４～１９８１）が吉田神社宮司（のちに生國魂神社宮司）となる。二宮は吉田兼倶により、吉田神社と同じ神楽岡の地に造られた斎場所太元宮（現在の建物は慶長６〈１６０１〉年の造営）の修理に尽力するとともに、吉田家や鈴鹿家が所蔵する資料を基礎に、吉田神道に関わる資料を集めた「吉田叢書」五編を計画した。この叢書は宮地直一の監修で進められ、西田長男（１９０９～81）が実務にあたった。西田は本学で宮地の教えを受け、後に本学の教授となった神道史学者である。

「吉田叢書」の第一編は昭和15年、第二編は17年に刊行された。24年に宮地が没した後は、西田がその編纂（第三編〈40年〉・第四編〈52年〉）を行った。

第三編を刊行し、戦後、中断していた吉田叢書の編纂再開に尽力したのは、本学出身で、当時、吉田神社の宮司であった大爺恒夫（１９１０～97）であった。そして、西田の没後、岡田荘司氏（現在、本学名誉教授）によって第五編（昭和59年）が編纂された。

※新たに見いだされた大嘗祭に関わる吉田家文書は、企画展「大嘗祭」にあわせて国学院大学博物館校史展示室で、11月１日から24日まで展示される。

研究開発推進機構准教授　大東敬明

人生の定点を定めてくれる「物語」多様化の時代だからこそ多彩な経験を

「物語」と聞くと一般的には小説や伝説、寓話といったものを思い浮かべる。石川則夫副学長は「物語」とは「語り」を前提とし、「高尚なものではなく、心のあり方として、日常生活を左右している。物語は自分自身を表現する基本的なもの」と話す。人間にとって物語とは何か―石川副学長に伺った。

インタビューの詳細は、本学ホームページ内「国学院大学メディア」に掲載。

――「物語（narrative）」とはどのようなものか？

石川副学長（以下・石川） 人間が一定の期間に経験する出来事を時系列に整えて語っていくことが「物語」だ。

物語というのは、自分自身が周囲に広がる世界を了解していく形なのだと思う。例えば大学受験。一生懸命勉強して志望校に合格して入学式に参加したとき、その人は今の自分をどう評価するか。それまでの成功や挫折などを思い起こしながらも、目標を達成した自分の物語の中に自分自身を見いだしているはずだ。ところが大学の勉強が難しく、「この学校は合っていないかも」となると、成功した自分ではなく挫折・葛藤する自分に更新されてしまう。そのようにして物語は更新を繰り返していくのだ。

社会の動きが緩慢で遅く、人の生活習慣が何年も崩れなかった時代には物語が単純化し、毎年同じ物語を反復していれば安心した生活ができた。しかし、近代化やグローバル化によって社会変化が活発になり、物語の更新が日々迫られる時代になると、自分自身の経験だけで物語ることは不可能になってしまった。そこに助け舟を出してくれるのが、今までさまざまな作家が書物という形で残してきた物語だ。

書物などから新たに物語を吸収しないと、物の見方が固定されてしまう。最近の人間評価の指標は単純化し、「勝ち組」「負け組」という二項対立で決めてしまうことが随分とあるが、「そうじゃない」物語が必要だ。その種の作品が昔から物語として作られ、読まれ、享受され、さまざまな形に派生することを繰り返してきた。文学作品に親しむことで、人間は自然に物の見方の複数性といったものを身につけてきた。

――物語は書物だけのものか？

石川 人間が自分自身を表現し、自分自身の在り方を語る基本的な形が物語だと考えた時、ポール・ゴーギャンの有名な絵が頭に浮かんだ。

ゴーギャンがタヒチで描いた『我々はどこから来たのか 我々はどこへ行くのか』（1897～98、油彩、ボストン美術館蔵）は不思議な絵で、南洋の絵としては色合いが暗い。この絵には子供も若い女性も描かれ、頭を抱えてしゃがみ込んだ老婆もいる。人間が生まれてから死ぬまでが一画に描かれていると考えられるが、左上には『我々は～』というタイトルになっている3つの疑問がフランス語で記されている。ゴーギャンがなぜこの疑問をタイトルにしたかは不明だが、人間の基本的で原初的な問いの集約がこれではないかと思ってしまう。おそらく、これが人間にとって物語の原型ではないかという気がする。

そこで、ゴーギャンが示した3つの問いが、自分自身が存在する定点を定めることになると気づいた。定点は人間を安心させる根拠となる。物語というものは、人間自身の在り方を規定し、人間自身がどのように生きていくかを支えてくれるものだ。

この絵には、世界中のあらゆる民族は神話を持っていると気づかされる。神話とは、その神がどのように現れ、どのような力を持っているのか、そして人間とどう関わるのか―が語られている。日本には『古事記』や『日本書紀』がある。原初的な人間であっても、ゴーギャンが示した3つの問いが自分自身の生活の定点を定めることになるということを示しているのだ。

――現代の若者にも物語は必要か？

石川 昔の若者は友達とおしゃべりすることで物語を発信していたが、今の人達はSNS（会員制交流サイト）などで発信している。友達と対面する形から、スマートフォン（スマホ）の画面とおしゃべりする形式に変わっただけだ。煩わしい人間関係を抜きにして発信するスタイルを選んだということだ。

スマホのゲームに熱中する若者も多い。ロールプレイングゲーム（RPG）というものがあるが、若者はゲームを構成する物語を通じて登場人物に自己を投影する。ゲームの中になかなかクリアできない場面もあるが、結局は「成功＝ゴール」に導くラインがあるわけだ。だが、我々が生きている世の中でゴールというものは与えられるものではなく、自分自身がどれをゴールにするのかを選ぶことになる。ゲームという限られた空間にとどまらず、自分自身の在り方を投げかけていく、もっと複線化した物語を経験する必要があるのかなとも思う。

人生の指針となるものは1本のレールだけではない。そのことを知るためにも、多彩な物語を経験する必要がある。物語を通じて、世界にはこんなにもいろいろな人間がいるという衝撃を感じてほしい。

いしかわ・のりお
国学院大学副学長（文学部長、教授）。昭和32年生まれ。56年国学院大学文学部文学科卒業、平成2年同大学院文学研究科博士課程単位取得満期退学。文学部専任講師、助教授、教授を経て29年から文学部長。平成31年から副学長、学校法人国学院大学理事。
専門は日本近代文学。関東大震災以降、大正から昭和の作家で、川端康成、横光利一、堀辰雄、小林秀雄などの研究をライフワークとしている。著書に『文学言語の探究 記述行為論序説』（笠間書院）など。

図書館を活用しよう！

国学院大学の渋谷・たまプラーザ両キャンパスには、それぞれ図書館が備わっている。渋谷では学術メディアセンター（AMC）の2～3階に開架スペース、1階と地下2階に書庫スペースを有し、地下2階には約50万冊収蔵可能な集密書庫と日本最大級の収蔵能力（約100万冊）を誇る自動書庫が設置されている。約20万冊の図書を所蔵するたまプラーザでは、蔵書を手にとって閲覧できる「全開架方式」を採用し、視聴覚資料の充実にも努めている。

平成18年度からは図書館システム「K-aiser」が稼働。書誌情報（一部を除く）がデータベース化され、コンピュータ端末からの検索および請求、貸出処理、オンラインデータベースへの簡単なアクセスなどの利用者サービスを提供している。「K-aiser」の利用方法は本学HP（https://kaiser.kokugakuin.ac.jp/）で確認できる。

この12冊を読もう！「物語」のオススメ本

初級編 逸脱性の少ない物語から読み始めよう

ストーリーが単線でできていて、主人公に感情移入していけば主人公の生き方や在り方、ストーリー展開を追えます。

『キッチン』 吉本ばなな（新潮文庫ほか）
『神様のボート』 江國香織（新潮文庫）
『風の歌を聴け』 村上春樹（講談社文庫）
『坊っちゃん』 夏目漱石（新潮文庫）

中級編 物語の多様性を経験しよう

登場人物のタイプが分かれ、さまざまな人間がいることがわかる。熊本から東京の大学に入った三四郎が1、2年の間に経験する出来事が描かれる漱石の『三四郎』は、地方から都会に出てきた学生には受け入れやすい物語だ。『掌の小説』は111編の超短編小説集で、『走れメロス』には表題作を含め物語性豊かな9作品が納められている。

『掌の小説』 川端康成（新潮文庫）
『走れメロス』 太宰治（新潮文庫ほか）
『三四郎』 夏目漱石（新潮文庫）

上級編 物語としての日本語表現を楽しもう

谷崎と鏡花は、「日本語の原型はこのようなものじゃないか」というところに入っていく。物語の日本語表現の在り方を、伝統的な古典世界からも地続きになっているような表現を読んでもらいたい。一葉の『たけくらべ』は現代語訳付きではない新潮文庫の原文で読むとカギカッコがなく、本来の物語文学のスタイルが分かる。日本人はそのような物語を読んできたのだから面白い。

『春琴抄』 谷崎潤一郎（新潮文庫）
『高野聖』 泉鏡花（新潮文庫）
『たけくらべ』 樋口一葉（新潮文庫）

番外編

短編連作の物語で全体を『冥途』というタイトルが付けられているが、読んでいて訳が分からないのが面白い（笑）。最初と最後はつじつまが合うが、その間には派生した物語が並んでいるだけで、関連性を見つからない。まるで迷宮だ。

『冥途』
内田百閒（岩波文庫ほか）

チャレンジ編

「いろんな人間やいろんな生き方や物語がある」ということが、そのまま小説になっているのがドストエフスキーの作品。中でも『罪と罰』はストーリーがしっかりしている。質屋の老婆殺し事件を主要ラインとしながら、多数の登場人物それぞれの人生・物語を交錯させて展開する長編小説だ。

『罪と罰』
ドストエフスキー
（新潮文庫ほか）

硬式野球部　首位攻防の中大戦落とす

東都大学野球秋季リーグ戦第５週で本学硬式野球部は10月８日から10日まで、勝ち点２で並ぶ中央大学と対戦した。１回戦（８日、国学院大７－９中央大）は先発・横山楓投手（健体４）が六回途中４失点を喫すると中継ぎも崩れ９点を奪われた。打撃陣は、六回に２点を返すと、七回には主将の貞光広登選手（経４）のソロ本塁打、八回には２死満塁から代打・大坪亮介選手（法３）にグランドスラムが飛び出し追い上げたが、逆転はならなかった。

２回戦（９日、国学院大３－０中央大）は、先発の小玉和樹投手（史４）が５安打無失点と好投し、リーグ戦初完封。開幕から５連勝中だった中央大の勢いを止めた。

連勝で首位に立ちたい３回戦（10日、国学院大０－１中央大）は、三回に先発の横山投手が１点を失ったが、四回から登板した２番手・諸見里俊投手（経３）が５回を無失点に抑え、打線の反撃を待った。打線は、好機を作るも１本が出ず逆転はならなかった。

満塁本塁打を放った大坪選手

インフォダイジェスト

…在学生　…保護者　…卒業生　…一般　…受験生
内内容　日日にち　時時間　場場所　対対象　申申し込み　料料金　問問い合わせ

大学からのお知らせ

台風19号で被災された方へ

内台風19号によって災害救助法が適用された地域に主たる家計支持者が居住し、家計の急変によって学業生活に支障をきたすおそれのある学生は保証人（保護者等）と相談の上、下記の大学各窓口までご相談ください。

対被害対象地域については本学ＨＰで確認してください。

問▶学生生活課
（☎03・5466・0145）
▶たまプラーザ事務課
（☎045・904・7700）
▶大学院事務課
（☎03・5466・0142）

「指定寄付金」ご協力のお願い

学校法人国学院大学では、私学としての公共性と独自性ある教育研究体制を確立するため、広くご寄付を募っています。

寄付の種類は、「学生・生徒等の奨学基金」「学生・生徒等の活動支援」「教育・研究振興支援」「施設・設備充実支援」の４つに加え、学生の課外活動を支援するための「課外活動支援（スポーツ強化部会等）」や「メッセージ募金」を設けています。

「メッセージ募金」は、スポーツ活動や課外活動などに熱心に取り組んでいる在学生に向け、本学ＨＰ（http://kifu.kokugakuin.ac.jp/）からメッセージを直接投稿してもらう仕組みです。500円から寄付が可能で、メッセージはそのままＨＰに公開されます（匿名可）。

申専用用紙またはインターネットでのクレジットカード決済が可能です。利用可能なクレジットカードは、ＶＩＳＡ、MasterCardの２種類です。

問総務課（☎03・5466・0111）

※本法人への指定寄付金は税制上の優遇措置を受けることができます。募金に関する情報は前出の本学ＨＰで閲覧できます

大学厚生寮「叢隠寮」の利用申し込み再開

内折口信夫博士（釈迢空）の別荘を本学が譲り受けた厚生寮「叢隠寮」（神奈川県箱根町）で平成30年から続けられていた改築工事が終了し、10月から利用が再開されました。秋冬の行楽などにご利用ください。

対院友・教職員・学生（教職員引率時のみ）

料9000円（本法人兼任教職員・院友、大学が認めた一般の方）、6000円（本法人専任教職員とその扶養家族）、3000円（本法人学生）

申・問人事課（☎03・5466・0105、FAX03・5466・0306）

※詳細や申し込み方法、空室状況は本学ＨＰ（https://www.kokugakuin.ac.jp/student/lifesupport/p9）で確認できます

若木祭に伴う休講について

内若木祭（本祭：11月２～４日）開催と準備・後片付けに伴い、学部・専攻科・別科・大学院の授業を渋谷・たまプラーザキャンパスとも休講とします。

日11月２日㈯・５日㈫

学生リアル調査を実施します

内６回目となる調査ですが、これまでに皆さんの回答を受けてキッチンカーの導入や喫煙所の移設、学内案内表示板の設置など、多くの改善が実現しました。調査方法はスマホ、タブレット、パソコンからK-SMAPYⅡにアクセスするだけです。今年度も、皆さんの大学生活のことや日頃感じていることを聞かせてください！

日11月６日㈬～19日㈫

博物館

料無料

時10時～18時（入館は17時30分まで）、11月25日㈪は休館

企画展「大嘗祭」

内天皇の代替わりに際して古代から行われる儀式には、主に「践祚」、「即位儀」、そして「大嘗祭」があります。「大嘗祭」は、即位した天皇が、新穀を中心とする神饌（神の食事）を初めて天照大神（天皇の祖先神）に供え、自らも召し上がる祭祀です。これは即位儀の後の11月の２度目の卯日に行われてきました。この祭祀は７世紀末の天武・持統天皇の時代に成立し、平安時代には基本的な形式が確立しました。応仁の乱以降、約220年行われなかったものの、江戸時代中期に再興され、第115代の桜町天皇からは、現在まで途切れることなく行われています。

本展では、本学所蔵資料のうち、江戸時代のものを中心に大嘗祭に関わる絵図、古典籍、模型、古文書を展示します。

日11月１日㈮～12月15日㈰

場博物館企画展示室

ミュージアムトーク

時14時～14時30分

場博物館ホールで

※予約不要、参加無料

①「女性天皇の大嘗祭―後桜町天皇の事例―」

内講師：吉永博彰（研究開発推進機構助教）

日11月９日㈯

②「衣食住と大嘗祭」

内講師：木村大樹、塩川哲朗（ともに研究開発推進機構ＰＤ研究員）

日11月16日㈯

③「大嘗祭と四季のまつり」

内講師：大東敬明（研究開発推進機構准教授）

日11月23日㈯・祝

ナイトミュージアムトーク

内講師：笹生衛（当館館長・神道文化学部教授）

時18時～18時45分（19時まで延長開館＝最終入館は18時30分）

場博物館ホール

※予約不要・参加無料

①「大嘗宮を復元する」

時11月12日㈫

②「亀トについて」

時12月10日㈫

※博物館関連イベントの問い合わせは☎03・5466・0359

キャリアサポート

グループディスカッション対策講座

内「グループディスカッション（ＧＤ）」は、通常の個人面接や集団面接とは進め方やチェックされるポイントが違う特殊な面接方法です。また、ＧＤは一人では対策が取りづらいため、練習の機会があまりありません。この講座は、ＧＤを突破するためのポイント解説と、模擬ＧＤのグループワークを行なう実践型トレーニングです。この講座を通して、本番でどのように臨めば良いのかを知り、場面や雰囲気に応じた発言やコミュニケーションを取れる適応力を身につけましょう！

日・時11月６日㈬３限か５限、７日㈭６限、８日㈮６限

※全４回は同じ内容になりますので、いずれかの時間帯に出席してください

対３年生

ＳＰＩ非言語対策講座

内ＳＰＩの非言語分野の中でも重要な科目を集中して対策をする講座です。頻出分野の問題を確実に解けるようになることが、選考突破に向けたポイントになります。専門講師から、誰でも簡単に答えが出せる解き方を解説してもらい、実際の問題を解きながら自分のものにしていく体験型の講座です。

日・時▶初級編：11月９日㈯３～４限▶中級編・ＷＥＢ編：16日㈯２～４限

対３年生

※いずれも渋谷キャンパスで開催。詳細確認・申し込みはK-ＳＭＡＰＹⅡの「就職／各種面談」→「セミナー申込」から

英語教育センター

TOEFL® 学内テスト

内英語教育センターでは、TOEFL ITPテストを学内で実施します。このテストは、聞く・読むの２技能を判定する団体向けのテストで、４技能を測定するTOEFL iBTテスト（受験料＄235）の６分の１以下の費用で受験できます。スコアは本学の協定留学、セメスター留学の参加資格として利用できます。iBT受験前の力試しや、英語力の目標設定のためにもご活用ください。

日11月30日㈯

時14時30分集合、17時15分解散（実際の試験時間は２時間）

場渋谷キャンパス（教室は試験１週間前をめどにお知らせします）

料3700円

対学部１～４年生、大学院生

申11月18日㈪までに自動証紙発行機で証紙を購入し、英語教育センター（渋谷）、たまプラーザ事務課に提出

問英語教育センター（百周年記念館）

茨城国体 2競技に本学選手が出場

９月29日から10月９日まで行われたいきいき茨城ゆめ国体（茨城国体）で、ソフトテニス成年男子と卓球成年女子に10人の本学学生が郷土の代表として出場した。

ソフトテニス成年男子では、ソフトテニス部の佐藤大和選手（健体２）が新潟県代表として出場するなど５都県の代表に６人が選ばれた。佐藤選手は、団体戦のダブルス３試合に出場し１勝２敗、新潟県代表はベスト16に入った。

卓球成年女子では、卓球部の阿部里歩選手（神文２）が大阪府代表として出場するなど４府県の代表に４人が選出された。

団体･個人の成績

ラグビーフットボール部＝関東大学ラグビー・リーグ戦グループ２部が９月15日に開幕した。開幕戦を６つのトライで36－19と快勝した本学は、第２、３節で連敗を喫して迎えた10月13日の国士舘大との試合は、前半から１トライを取り合うと前半終了間際に１トライ１ゴールを奪われリードして折り返した。後半は開始早々にＷＴＢ・江上雄代朗選手（法４）のトライなどで同点。２分後にはＣＴＢ・小野凌雅選手（法２）の勝ち越しトライが生まれ逆転に成功した。その後もトライを量産し53－14で通算成績を２勝２敗とした。

ソフトテニス部＝首都学生ソフトテニス秋季リーグ戦が９月９～11日、千葉県白子町で行われた。春季に続く１部優勝を目指した男子は、２勝３敗で３位に入った。

１部所属の女子は、連勝を重ねたが東京経済大との最終戦に敗れ、４勝１敗で２位だった。

このほか、男子のダブルス選手権では、新沼稜大選手（初教２）・岡﨑聡太選手（神文1）ペアが３位、女子ダブルス選手権では、久米夏子選手（法１）・坂東花音選手（史４）ペアが３位に入るなど活躍した。

卓球部＝関東学生卓球秋季リーグ戦が９月に行われ、２部に所属する男子は２勝３敗で４位。同じく２部の女子は、今季の全日本大学総合選手権準優勝の東洋大に勝利するなど熱戦を繰り広げたが、３勝２敗で４位となり、いずれも２部残留となった。

強化部会主なスケジュール（10～11月）

硬式野球部＝東都大学野球秋季１部リーグ　対亜細亜大①〔10／22（火）14：00・神宮球場（東京都新宿区）〕、同②〔10／23（水）11：30・同〕

柔道部＝令和元年度講道館杯全日本柔道体重別選手権大会〔11／２（土）～３（日・祝）両日とも09：00・千葉ポートアリーナ（千葉市中央区）〕

陸上競技部＝秩父宮賜杯第51回全日本大学駅伝対校選手権大会〔11／３(日･祝)08:05･熱田神宮西門前(名古屋市熱田区)～伊勢神宮内宮宇治橋前(三重県伊勢市)〕

剣道部＝第67回全日本学生剣道優勝大会〔10／27（日）・千葉ポートアリーナ（千葉市中央区）〕、第38回全日本女子学生剣道優勝大会〔11／10（日）・春日井市総合体育館（愛知県春日井市）〕

ラグビーフットボール部＝関東大学ラグビー・リーグ戦グループ２部　対東洋大〔10／27（日）11：00・国士舘大G〕、対関東学院大〔11／3（日・祝）14：00・拓殖大Ｇ〕、対山梨学院大〔11／17（日）12：00・国士舘大Ｇ〕

卓球部＝第86回全日本大学総合卓球選手権大会・個人の部〔10／24（木）～27（日）・島津アリーナ京都（京都府立体育館、京都市北区）〕

創部100年の柔道部 好成績続々

島田選手 初の学生日本一

大正８（1920）年の創部から100年目の節目を迎えた柔道部に国内外の主要大会で好成績が続いている。

９月28～29日に秋田県立武道館(秋田市)で行われた全日本学生柔道体重別選手権大会には、主将の島田隆志郎選手(健体４)ら５人が出場。同大会男子73kg級で１年時から２位、３位、２位と表彰台に上がっている島田選手は、最終学年で初の頂点を目指した。

２回戦から順調に勝ち進んだ島田選手は、準決勝で西園航太選手（明治大）を背負投で一本勝ち。大吉賢選手（日本体育大）との決勝戦では延長の末、小外刈で技ありを奪い初優勝を決めた。

島田選手は試合後「これまでけがが続いていた。監督、コーチをはじめ先輩、ＯＢら皆のおかげで、めげずに頑張って結果が出せた。個人では、講道館杯、グランドスラム優勝を目指す」と喜びを語った。

全日本学生柔道体重別（結果）

階　級	氏　名	所　属	結　果
66kg級	新井　雄士	史　2	１回戦敗退
73kg級	島田隆志郎	健体４	優　勝
81kg級	常見　昂世	法　2	３回戦敗退
	長澤　大雅	健体３	１回戦敗退
90kg級	斉本研アレクサンドル	健体１	２回戦敗退

武岡選手、新井選手 ジュニア1、2位独占

全日本ジュニア（結果）

階　級	氏　名	所　属	結　果
60kg級	樋口誠二朗	法　1	２回戦敗退
66kg級	武岡　毅	日文２	優　勝
	新井　雄士	史　2	準優勝
81kg級	常見　昂世	法　2	２回戦敗退
90kg級	斉本研アレクサンドル	健体１	２回戦敗退

全日本ジュニア柔道体重別選手権大会が９月14～15日、埼玉県立武道館（埼玉県上尾市）で行われ、本学柔道部から予選を突破した５人が出場した。男子66kg級では、同学年の武岡毅選手（日文２）**＝写真右＝**と新井雄士選手（史２）**＝同左＝**が出場。東京ジュニアチャンピオンの武岡選手は、他大学の強豪を次々と退け決勝に進むと、新井選手もインターハイ王者らを破り決勝に進んだ。

同門対決となった決勝は、４分間では決着がつかず延長戦に。延長開始27秒に武岡選手が一本背負投で技ありを奪い優勝を飾った。武岡選手は10月16日～20日にモロッコ・マラケシュで行われる世界ジュニア柔道選手権大会に日本代表として出場する。本学柔道部からの同大会の出場は、相田選手に続いて２年連続となる。

相田選手 国際大会２位

今年６月にジュニアの国際大会で優勝した相田勇司選手（法２）は、９月20～22日にウズベキスタン・タシケントで行われたグランプリ・タシケントの男子66kg級に日本代表として出場。２回戦から準々決勝までをすべて一本勝ちで各国の強豪を退けると、準決勝は延長戦の末に相手の反則で勝利した。シャミロフ選手（ロシア）との決勝戦は、互いに技ありを奪う接戦となったが開始２分34秒に２つ目の技ありを奪われ一本負けを喫し、準優勝となった。

全学応援団 伝統の踊りで観客魅了

「大学応援団フェスタ」が９月28日、東京・代々木の国立オリンピック記念青少年総合センターで開催された。昨年に続く２回目となり、メインイベントの「紅白応援合戦」では、首都圏で活動する12校が紅組、白組に分かれて競い合い、国学院大学の紅組が勝利を収めた。

参加したのは、紅組（上智大、東洋大、亜細亜大、東海大、国学院大、一橋大）、白組（筑波大、城西大、青山学院大、大東文化大、防衛大、駒沢大）。

応援団は学ラン着用で応援を主導する「リーダー部」に「チアリーダー部」「ブラスバンド部」を加えた３部構成。独特の抑揚をつけた「言い回し」による自己紹介に続いて、各校伝統の応援歌や踊りを披露し、観覧者を魅了した。

本学全学応援団は昨年も対戦した防衛大を意識し、リーダー部の男子学生たちだけで登場。応援団最古の演技といわれる「国大音頭」と、「必勝の踊り**＝写真**」で勝利に貢献した。「男臭さと、踊りの演技による『突き』という自分たちの特徴が出せた」と第68代団長の細谷慶太郎さん（法４）は胸を張った。

応援団といえば、いまだに「怖い」「暴力的」というイメージを持たれがち。だが、細谷さんは「必要な厳しさが上下関係や練習に表れる」と理解を求め、「大学、選手、一緒に応援してくれる人のために応援する。それが結果として、自分のためになる」と訴える。

応援団フェスタでは、チアリーダー部による華やかな演技のほか、各大学のパネル展示を回るスタンプラリーや学ランの試着コーナーなども企画され、大学応援団の多様な魅力を紹介。実行委員会会長も務めた細谷さんは「各校の個性を尊重しながら、それぞれの応援スタイルを楽しんでもらえたと思う」と話した。

K:DNA

2019 10

K:DNA——創立137年目を迎えた国学院大学の遺伝子…個人・個性を尊重する校風　若いエネルギーが未来を変える

陸上競技部

オール国学院の逆転Ｖ 神集う出雲路で実力示した

「まさか逆転できるとは」と前田康弘監督が語った出雲駅伝での大逆転Ｖ。１区から常に上位集団で４強と呼ばれた青山学院大、東海大、東洋大、駒沢大に引けを取らないレースを展開した結果だった。

レースは島根県出雲市の出雲大社前から出雲ドーム前までの６区間45.1キロのコースで、21チームが出場した。１区・藤木宏太選手（神文２）が５位でルーキー・中西大翔選手（健体１）にタスキをつなぐと３位に順位をあげエースが揃う３区に。浦野雄平選手（経営４）は一時は先頭に立ってレースを展開。続く青木祐人選手（経ネ４）、茂原大悟選手（史４）は順位を下げつつも上位から離されることなくアンカーの土方英和主将（健体４）につないだ。

先頭と37秒差の４位でタスキを受けた土方選手は、東海大、青山学院大と３位集団を形成し猛追。６キロ過ぎに２位の東洋大学を抜き去ると、残り約700メートルでトップを走る駒沢大をかわし、一気に先頭に立ちそのままゴールを駆け抜け、歴史を変える初優勝を決めた。

個人成績

区間	氏　名	学年	タイム	区間順位	総合順位
1	藤木 宏太	2年	24'29"	5位	5位
2	中西 大翔	1年	16'21"	3位	3位
3	浦野 雄平	4年	23'57"	3位	2位
4	青木 祐人	4年	17'45"	5位	4位
5	茂原 大悟	4年	18'21"	5位	4位
6	土方 英和	4年	29'05"	1位	1位

総合順位（上位８位まで）

順位	大学名	総合成績
1	国 学 院 大	2:09:58
2	駒　沢　大	2:10:06
3	東　洋　大	2:10:09
4	東　海　大	2:10:18
5	青山学院大	2:10:51
6	立 命 館 大	2:13:11
7	帝　京　大	2:13:49
8	順 天 堂 大	2:14:04

以下省略

1区・藤木選手：区間賞を取れる状態だった。次の全日本ではリベンジをしたい。

2区・中西大選手：初駅伝で緊張した。集団から離されずついていけてよかった。

3区・浦野選手：駅伝で先頭に立つ経験ができたのは大きい。三大駅伝３位以内を目指して地に足をつけて頑張りたい。

4区・青木選手：調子が悪い中、つなぐ走りとなった。全日本に向けて次こそは頑張りたい。

5区・茂原選手：副将としてチームを支えてきて優勝できてうれしい。長い距離が得意なので全日本大学駅伝は区間３位を目指したい。

6区・土方主将：目標の３位以内に押し上げてることを目指して走った結果。ゴールを確信してうれしい気持ちになった。

前田監督：選手が自分の考えを持っていいチームを作ってくれた。サポート、支援をしてくれた方、オール国学院の勝利だ。

未来につなぐ 学術資産研究ノート

大嘗会の秘儀を知る

大嘗会の供膳、つまり神への食のもてなしの際の作法に関する「秘説」が記されている。後鳥羽院の建暦２（1212）年の日記の一部を抜き書き編集した体裁を取る。同年は院の子である順徳天皇の大嘗会が行われた年であり、院が天皇に秘説の一部を伝授した旨も記されている。永仁６（1298）年の奥書を記す本学所蔵品は、伏見院（後鳥羽院の玄孫）書写とされる宮内庁書陵部蔵伏見宮本と同系統である。

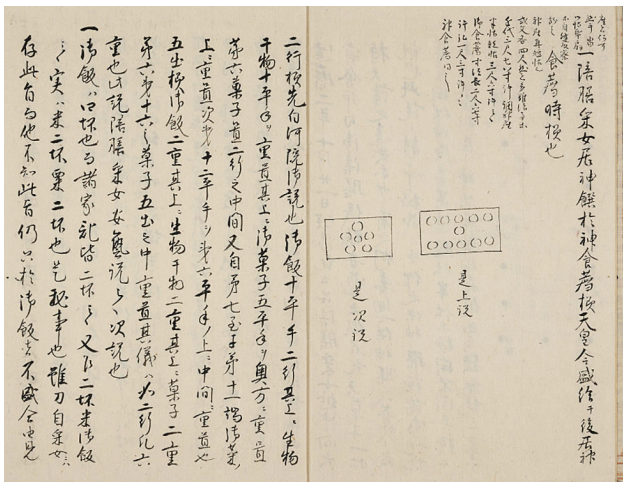
同記の示す大嘗会の供膳の「秘説」とは、天皇による神への祈りの文言や、配膳法の優越判断である。後者で他説を完全排除していないのは、当時多くあった、幼少の天皇を摂政が補佐して行う供膳を考慮に置いたためである。この場合、同記で次説とされた配膳法に基づいていたようである。「秘説」は、半世紀ぶりに摂政不在の親祭を行う順徳天皇の供膳の権威付けのために、わざわざ明記された可能性が高い。

同記には、「供膳作法に秘儀のある点を示した、最も古い周知の記録」という特色もある。しかも記主後鳥羽院は供膳を行っている。大嘗会の秘儀が何であるかを知るための基本史料として位置づけられ、事実、後代尊重された。

資料の全体は、国学院大学図書館デジタルライブラリーで公開中。

神道文化学部准教授　加瀬直弥

大嘗会神膳秘説



国学院大学図書館所蔵